



関東地方ESD活動支援センター

Education for Sustainable Development

活動レポート 2021-22

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



#ESDfor2030

「ESD for 2030」は、SDGs（Sustainable Development Goals：持続可能な開発目標）の成功への鍵として、ESD（Education for Sustainable Development：持続可能な開発のための教育）は不可欠な実施手段であるとして、国連で採択された決議です。国連加盟国政府及び他のステークホルダーが、「ESD for 2030」の実施を通じて、ESDの行動を拡大することが奨励されています。

■ ESD とは？

「持続可能な開発のための教育（ESD：Education for Sustainable Development）」とは、人類が将来の世代にわたり恵み豊かな生活を確保できるよう、気候変動、生物多様性の喪失、資源の枯渇、貧困の拡大等、人類の開発活動に起因する現代社会における様々な問題を、各人が自らの問題として主体的に捉え、問題の根本的な要因等にも目を向け身近なところから取り組むことで、それらの問題の解決につながる新たな価値観や行動等の変容をもたらし、もって持続可能な社会を実現していくことを目指して行う学習・教育活動のことである。

【第2期 ESD 国内実施計画より】

■ ESD 推進ネットワーク

文部科学省と環境省は、ESD 活動の支援を行うために、全国センターと8つの地方センターを開設しています。地域 ESD 活動推進拠点や、各地の ESD 活動に取り組む皆さんとともに、SDGs の達成に向け、ESD の推進を行なっています。

当センターは関東ブロック(茨城・栃木・群馬・埼玉・千葉・東京・神奈川・新潟・山梨・静岡)における ESD 活動を支援し、地域 ESD 拠点と協働・連携した活動、さらに全国センターと協働・連携して地域と全国や海外との協働・連携を支援しています。



■ 関東地方 ESD センター4つの機能

1. ESD 活動を支援する情報共有機能

ESD は様々な団体で取り組まれ、実践活動やセミナーなども多数行われており、これらの情報を収集・発信をしています。

2. 現場のニーズを反映した ESD 活動の支援機能

ESD の実践に役立つ先進事例に関する勉強会など、日々変わるニーズに応じたセミナーの実施、開催支援を行っています。

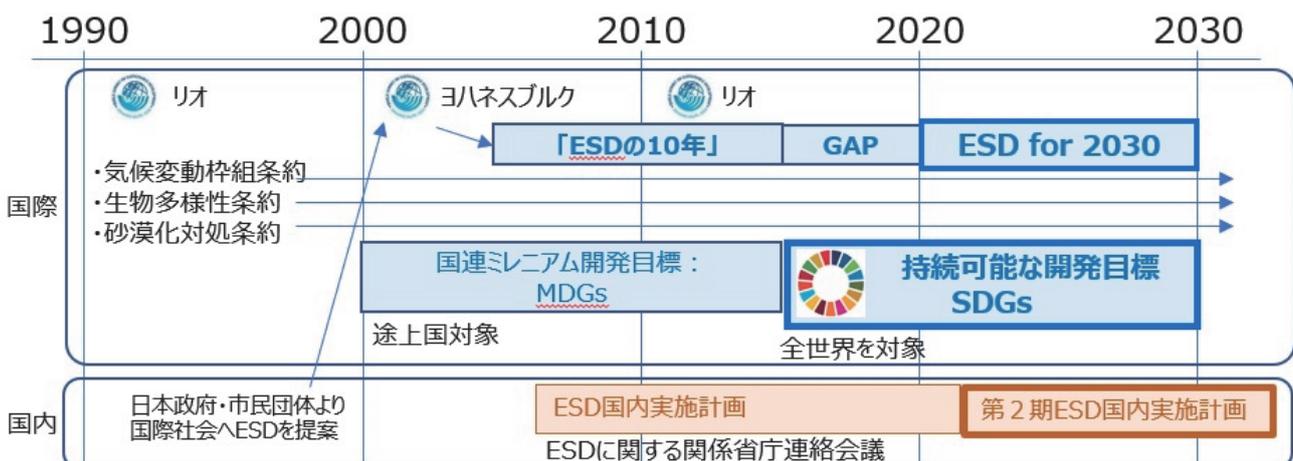
3. ESD 活動のネットワークの形成機能

当センターでは、“地域 ESD 活動推進拠点”に登録された団体や、様々な組織と連携したネットワークで、ESD の取り組みが推進されることを目指し、様々な取り組みを行っています。

4. 人材育成機能

ESD を実施するに当たり、ESD や SDGs に関する研修等の実施、人材（リソースパーソン）の紹介、コーディネートなど、各地域のニーズに応じて、人材育成に関わるサポートを行っています。

■ ESD 推進に関わる国際的な動向と日本政府の取り組み



1.ESD 活動を支援する情報共有機能

ホームページによる情報発信

<http://kanto.esdcenter.jp/>



首都圏を中心に、関東エリアでは様々な団体がESD/SDGsに関連したイベント、セミナー、コンテスト等を実施しています。そうした情報を収集し、情報発信しています。当センターが実施したアンケートで、「ESDの具体的な取組状況が分からない」というご意見が多数あり、各地で開催される行事に参加し、記事を掲載しています。

この他に当センター行事の報告や、ESDに関する教材などの情報源の提供など、様々な情報提供を行なっています。

原則として、毎月第1木曜日にメールマガジンを発行しています。関東地方のESDやSDGsに関するイベントや、コンテスト等募集、ニュースなどの情報を集めてお送りしますので、是非ご登録ください。

メールマガジン登録



Facebookでの活動紹介例

即時性の高い情報や、当センターの日々の活動などは、facebookで情報発信しています。



当センターFacebookページで、日々の活動や最新情報などを掲載しています。いいね！をしていただくとありがたいです。



2.現場のニーズを反映した ESD 活動の支援機能

ESD の実践に役立つ、先進事例に関する勉強会など、日々変わるニーズに応じたセミナーの実施、開催支援を行っています。昨年度に引き続き、ユース応援企画として、「SDGs 文化祭」の開催協力を行いました。

SDGs 文化祭



2030年の未来は、
大人には任せておけない！

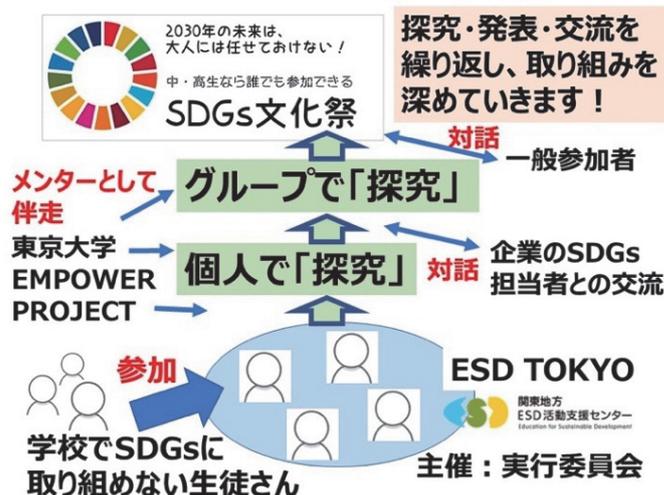
中・高生なら誰でも参加できる

SDGs文化祭

日時： 令和3年7月18日～
令和3年10月31日(全5回)
場所： オンライン
主催： SDGs文化祭実行委員会
： (一社) ESD TOKYO
： (一社) 環境パートナーシップ会議
後援： 東京大学 EMPOWER Project
参加： 64名

What 今回で3年目となる、この「SDGs 文化祭」は、SDGsに興味があっても周囲に仲間がいない生徒や、関心があっても学ぶ機会が与えられていない生徒が集い、SDGsについて学び・実践した活動を発表する取り組みです。将来の社会を担っていく若者にとって、持続可能な未来は、まさに自分事です。そうした彼・彼女たちは、将来についてどのような課題あると考えているのか、またそれをどのような方法で解決しようと考えているのか。

文化祭当日まで半年の活動を通じて、それぞれがSDGsの課題解決につながる取り組みを考えてきました。この文化祭では、彼らが考え実践する、様々なSDGsへの解決アプローチを、広く世の中に問うものです。令和3年度は全てオンラインで実施しましたが、地域を越えてチームが作られるなど、オンラインならではの良さもありました。試行錯誤して準備した各チームの発表を聞き合い、質疑応答する場を設けました。



■プログラム実施内容

SDGs 文化祭は、以下のような学びのプロセスで実施しました。

キックオフ	7/18 (日)	問題意識や興味がある分野の共有。
2nd セッション	7/27 (火)	各自で考えたアイデアを、社内でSDGsやCSRを担当する企業人に話して、アドバイスや感想を聞き、アイデアをブラッシュアップ。
3rd セッション	8/25 (水)	チーム分けを行い、今後取り組んでいくSDGsプロジェクトを固めた。
中間発表	9/26(日)	チームで取り組んできた内容を発表し、それぞれの取り組みについて、メンバー全員でアドバイスし合うとともに、本番に向けたプレゼンの練習を実施。
SDGs 文化祭	10/31(日)	これまで取り組んできた成果を発表し、一般参加の大人や中高生から、取り組み内容に関するディスカッションを行った。

■各チーム発表内容

10月31日に実施した「SDGs文化祭」では、下記6つのプロジェクトとゲストの取り組みが発表され、オンライン参加者の方々から様々なフィードバックをいただきました。

- ・10代とジェンダー教育
- ・文房具とランドセルで社会をつなごう
- ・WATER CRISIS
- ・知ることから始めるマイクロプラスチック!!
- ・食育を通してSDGsを広めよう
- ・企業とSDGsについて語ろう
- ・-やわらかい頭で【国境を超えた仕事の共存】を考える-
- ・ファッションの視点からジェンダー平等を目指す
- ・学生から始める食品ロスのない世界
- ・What do you know about the SDGs?
- ・FAIRTRADE SCHOOL



高校の探究の時間で SDGs に取り組みには、どうすれば良いかを考える勉強会



関東地方 ESD 活動支援センター
Education for Sustainable Development

教員対象



高校の探究の時間で SDGs に取り組むには、どうすれば良いかを考える勉強会

日時：令和3年8月25日（水）14:00～16:30

場所：オンライン

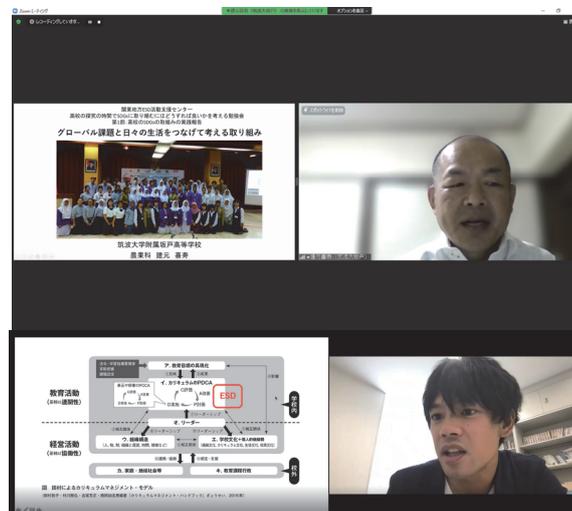
対象：教員、教育委員会の方（主に、中高）

主催：関東地方 ESD 活動支援センター

協力：（一社）ESD TOKYO

学習指導要領の改訂により、高校に「総合的な探究の時間」が科目として導入されるのを機に、SDGs をテーマに取り組む学校も増えてきました。また最近では、テレビ等でも SDGs を取りあげる番組が増加してきており、SDGs という言葉の知名度そのものは向上してきていると言えます。

しかし、SDGs を総合的に理解する機会は限られており、当センターにも SDGs に関する授業の進め方について、お問合せを頂くこともあります。そうした背景から、主に高校の教員の方を対象に、本勉強会を企画しました。国立、私立、公立のそれぞれで実践されている先生から、カリキュラム・マネジメントを見据えた上での導入経緯、取り組みの目指すゴールなどについてお話いただき、参加者の皆さんとディスカッションを実施しました。



第1部 <事例発表>

国立、私立、県立高校の先生から、SDGs をテーマとした取り組みの発表をいただきました。

1：筑波大学附属坂戸高校 農業科 教諭 建元 喜寿 氏

2：（一社）ESD TOKYO 佐藤 駿介 氏（私立中高で SDGs 担当教員）

3：千葉県立小金高等学校 総合学科部長 椿 仁三千 氏

第2部 <SDGs の探究について考えるワークショップ>

ファシリテーター：ESD TOKYO 共同代表 松井 晋作 氏

3.ESD 活動のネットワークの形成機能

“地域 ESD 活動推進拠点”に登録された団体や、様々な組織と連携したネットワークで、ESD の取り組みが推進されることを目指し、様々な取り組みを行っています。

関東 ESD 推進ネットワーク 第 5 回 地域フォーラム

多世代で進める これからの

#ESDfor2030

Education for SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



日付：令和 4 年 1 月 30 日（日）
13:30～16:30
場所：WEB 開催 オンライン（Zoom）
主催：関東地方 ESD 活動支援センター
環境省関東地方環境事務所
参加：64 名

What 関東地域の多様なステークホルダーが一堂に会し、地域ネットワークの形成を構築する機会として、毎年 ESD 推進ネットワーク地域フォーラムを開催しています。地域 ESD 拠点の事例などを題材に、多くの方に ESD の考えを広めて行く場です。

Report 「ESD for 2030」がユネスコで決定された事を受けて、政府は令和 3 年 5 月に第 2 期 ESD 国内実施計画を策定しました。SDGs の目標達成のための人材育成 = ESD という事が明確に示され、ESD の役割もさらに重要視されるようになってきました。そこで今回は ESD の要素として重要な一つである、「多世代交流による学び」に関する取り組みを紹介し、関東を中心とした ESD に関わる方が集い、学び合う場を設けることとし本フォーラムを実施いたしました。

■プログラム実施内容

開会挨拶（環境省関東地方環境事務所）

趣旨説明：最近の ESD 等の動向（関東地方 ESD 活動支援センター）

ESD 実践事例報告：多世代で進める「ESD for 2030」

●食品ロス・生ゴミ削減の ESD プログラム開発

筑波大学附属坂戸高校 2 年生チーム／筑波大学附属坂戸高校 農業科 教諭：建元 喜寿 氏

●外国人労働者と共生するこれからの社会を考える

渡邊 七虹 氏（SDGs 文化祭参加者・高校 2 年生）／

（株）アウトソーシング 製造・サービス統括本部 事業企画室 室長 吉留 憲治 氏

サステイナビリティ委員会事務局 事務局員 リドバーグ 愛子 氏

●世代を超えた地域での環境保全の環づくり

下山 友理香 氏、手島 彩華 氏、深代 由利沙 氏、村松 宏美 氏（高崎商科大学 萩原ゼミ）

上州ぐんま ESD 実践研究会 代表世話人／萩原 豪 氏（高崎商科大学 商学部 准教授）

分科会：事例紹介テーマに別れて意見交換

食品ロス・生ゴミ削減	外国人労働者と共生する これからの社会	世代を超えた地域での 環境保全の環づくり
------------	------------------------	-------------------------

全体会：多世代で進める「ESD for 2030」・ファシリテーター：高田 研 氏（都留文科大学 地域社会学科 特任教授）

■各事例の内容

■食品ロス・生ゴミ削減のESDプログラム開発



「学び合いプロジェクト2030」参加 筑波大学附属坂戸高校 農業科2年生チームの皆さん

「食」に興味があるメンバーが集まり「食品ロス」課題解決のために活動したいと考え関東ESDセンター主催「学び合いプロジェクト」へ参加。コンポストについて学び、個人で実際に実践。そこで学んだ「食の循環」を自作の紙芝居を通して親子体験プログラム内の参加者へ伝えた経緯と成果を報告。

■外国人労働者と共生するこれからの社会を考える



SDGs文化祭参加者・高校2年生 渡邊 七虹 氏

「外国人労働者との共生」を含んだ「多文化共生」を目標として若い世代に働きかけを実施中。株式会社アウトソーシング、関東ESDセンターと共催した「企業と語ろう」のイベントについて実施後のアンケートから考察を含めて報告。

■世代を超えた地域での環境保全の環づくり



高崎商科大学萩原ゼミ生 下山 友理香 氏、手島 彩華 氏、深代 由利沙 氏、村松 宏美 氏

ゼミ内での学びを通して地域と連携したESDを実践中。SNS活用や映像配信知識など若者世代であるからこそその強みを活かし活躍。実際に技術を活かし実施した学内のイベントの成果を報告。

■まとめ

・総合コメンター：高田 研 氏（都留文科大学 地域社会学科 特任教授）

地域意見交換会 in 静岡 「静岡のSDGs 教育&ESD」Now !



日時	11月28日(日) 14:00~17:00
会場(本編)	大田区立伊豆高原学園(静岡県伊東市) +オンライン(Zoom)
主催	関東地方ESD活動支援センター
協力	VISIONARY INSTITUTE
参加者	25名

What 地域のESD推進を図るため、県域を対象とした意見交換会を実施しています。令和3年度は静岡県で実施し、県内の地域ESD拠点の方を中心に集まりいただき、ESD・SDGsを推進する

方々との意見交換の場として開催しました。静岡県は東西に長い県なので、全域での交流が難しい地域ですが、コロナ禍でも制限がない時期であったため対面の開催とし、貴重な学びの機会となりました。

■プログラム実施内容

■ エクスカーション

下記のESD関連の施設等の視察を、午前中に実施しました。ITOまなびや Stationは、VISIONARY INSTITUTEが運営するSDGsを学べる施設で、地域の方から旅行者の方まで、色々な世代の方がご利用できる施設です。

- ・伊豆半島ジオパーク 伊東ビジターセンター(ジオテラス伊東)
- ・ITOまなびや Station
- ・ジオサイト: 城ヶ崎海岸(橋立 大淀・小淀)



■ 地域ESD活動推進拠点の取り組み紹介

静岡県内の5つの拠点より、ESDの取り組みについて、発表していただきました。

- ・特定非営利活動法人アースライフネットワーク <静岡市葵区>
- ・公益財団法人 ふじのくに未来財団 <静岡市駿河区>
- ・伊豆半島ジオパーク推進協議会・教育部会 <伊豆市>
- ・一般社団法人自然エネルギー推進機構 <伊東市>
- ・VISIONARY INSTITUTE <伊東市>



■ 意見交換・ワークショップ ~ブレイク・アウト~

ワールドカフェスタイルを2回転実施しました。2回転目に着地したテーブルで①「願望・野望」②「阻害要因」③「今日新しく思いついたやってみたくいこと」をブレインストーミングスタイルでシェアしていきました。他団体の状況の把握、同じ悩みを持つことに気がつき、それぞれが目指している未来を表現し合う時間となりました。緊急事態宣言が解除となり、久しぶりの対面研修会だったこともあり、話が尽きることなく、何度も時間延長を繰り返す盛り上がりでした。

●参加者の声(アンケート抜粋)

- ・自分と違う視点の意見をうかがえて大変よかった。
- ・知らなかった身近な活動を知ることができてよかった。
- ・伊豆地域を中心とする県内の団体と情報交換できました。
- ・いろいろな人とつながりを持てたのがよかった。
- ・普段の活動がESDにつながっていると感じた。

地域 ESD 活動推進拠点 オンライン研修会

関東エリアの地域 ESD 活動推進拠点の皆さんの研修会を実施しました。今年度も昨年度に引き続き、コロナへの対策としてオンラインで開催しました。特に、新規で地域 ESD 拠点に登録された団体の方にご参加いただき、事例の発表や拠点同士でのブレイクアウトルームでの意見交換など、学び合いの機会となりました。

日時：令和4年2月22日（火）
場所：オンライン（Zoom）
参加者：28名（16拠点）

【事例紹介1】「施設と学校連携」

・フォッサマグナミュージアム（新潟県）小河原 孝彦 氏

糸魚川ユネスコ世界ジオパークにある糸魚川市立の博物館。ジオパーク内にある活火山「焼山」について、県立糸魚川白嶺高校の生徒が、主体的に火山の恵とリスクについて学ぶ ESD 事例をご紹介いただきました。この取り組みは、内閣府主催の「2022 年度防災教育チャレンジプラン」で防災教育特別賞を受賞。



【事例紹介2】「3R 出張授業」

・NPO 法人 持続可能な社会をつくる元気ネット（東京都）理事長 鬼沢 良子 氏

1996 年から家庭ごみについての問題を「市民・企業・行政」の連携で解決していく活動を継続。長い活動履歴の中でも、ここ 10 年ほど力を入れている地域での人材育成事業「3R 普及啓発と市民リーダー育成事業」についてご紹介いただきました。



【事例紹介3】「地域 ESD」

・一般社団法人 里山こらぼ（埼玉県）平井 純子 氏

埼玉県飯能市に拠点を置き、里山の豊かなリソースを「研究すること」と「幸せになるためのコラボレーション」を合わせた団体名「里山こらぼ」として 2017 年 6 月に設立。現在、①調査研究②学童保育③エコツーリズム③プロダクト開発の 4 件を実施中。地元根付きながら、多世代にて実践している各プロジェクトの進捗状況をお話いただきました。



「ESD 推進ネットワーク全国フォーラム 2021」における分科会の企画運営

ESD 推進ネットワーク全国フォーラムは、ESD 推進ネットワークのステークホルダーが一堂に集い、ESD に関する最新の国際・国内動向、ネットワーク形成の状況を共有するとともに、全国各地の実践事例を学ぶ機会です。

今年度より全国・地方センターが連携して地域の垣根を超えた学びを行う「ESD2030 学び合いプロジェクト」事業がスタートし、3つの分科会で取り組みの内容を深掘りしました。関東では、中部・四国の各地方 ESD センターと連携し、「地域に根差した多様な SDGs 人材育成」をテーマに、事例発表やディスカッションを行いました。それぞれの地方センターが、それぞれの地域特性などに応じたテーマを選び実施しており、様々なアプローチや学びのスタイルがあることを知る時間となりました。



日時：令和3年12月11日（土）
場所：オンライン（Zoom）

ESD for 2030 学び合いプロジェクト 自然体験を通じて、生活に関わる SDGs を学ぶ

ESD 活動推進に資するテーマを定めて地域内外の ESD 関係者に交流と学び合いの機会を提供することを目的に、今年度より全国 8 地方センターで「ESD for 2030 学び合いプロジェクト」を新規に立ち上げました。関東では「自然体験を通じて、生活に関わる SDGs を学ぶ」をテーマに、食品ロスや生ゴミ削減に関する理解の促進・及び実践者を増やすことに資する取り組みとして、勉強会及び実践事業を実施しました。

“地域 ESD 活動推進拠点”に登録された団体や、様々な組織と連携したネットワークで、ESD の取り組みが推進されることを目指して、取り組みを行っています。

学び合いプロジェクトの概要

実践フィールド（群馬県桐生市）
チャウス自然体験学校の畑



**目標：生ごみ排出削減
食べ物の大切さを知る**

体験プログラム実施

畑での収穫・コンポストなどの体験など
・対象：親子（小学校低学年+親）
・時期：令和3年11月21日（日）

目標を達成するためには、
どのようなプログラムを実施
すれば良いのかを考えます。

=今回の募集

- ・オンライン参加
- ・SNSで情報共有

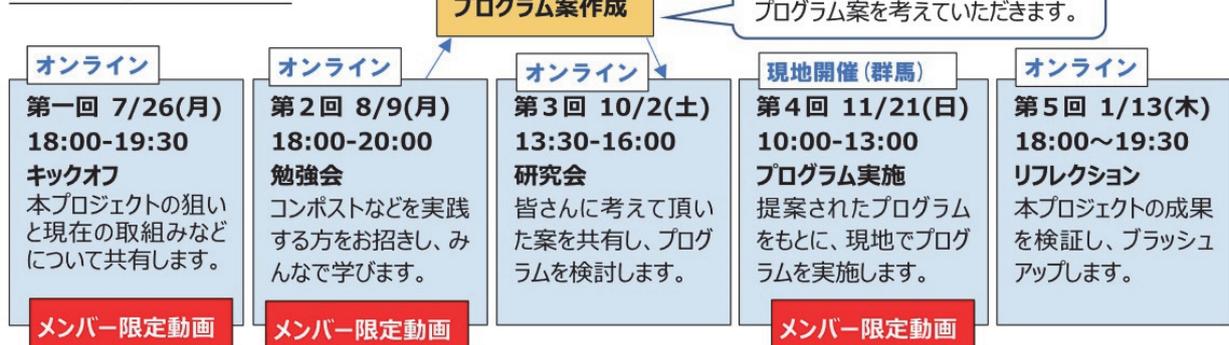
ESD を実施するにあたり、「体験」は学習者にインパクトのある学びの機会であり、重要な要素です。今回の研究会では、畑での「体験」を通じて、「食」と、「生ごみ削減」の大切さに気づき、実践する人が増えることを目的に実施しました。どのようなプログラムを実施すれば、効果的な気づきがあるかを考える、参加型プロジェクトです。プロジェクトにご登録いただいた方と一緒に学び合いながら、効果的なプログラムを考えました。

また、コロナ禍での実施として、オンライン（Zoom）のリアルタイム参加だけでなく、メンバー限定で録画した勉強会を視聴できるようにし、後から見逃し視聴が可能な方法で実施しました。

学び合いプロジェクトで目指す成果



プロジェクト・スケジュール



第1回キックオフ日時：令和3年7月26日

・食品ロスと生ごみ削減・有効利用

～私たちにできること～

NPO 法人 持続可能な社会をつくる元気ネット

理事長 鬼沢 良子 氏

・自然学校で実施している SDGs 学習プログラム

NPO 法人 チャウス 理事長 加藤 正幸 氏

初回は、本プログラムの趣旨説明とを行い、コンポストによる「生ごみ削減」と、自然学校での「体験を通じた学び」について理解を深めました。



第2回勉強会 日時：令和3年8月9日

・「たのしい循環生活 #コンポストのある暮らし」

NPO 法人循環生活研究所 理事/ディレクター

木村 真知子 氏

・「生ごみで有用菌を増やし病害虫に強い 野菜を育てる」

(株)菌ちゃんふぁーむ 社長 吉田俊道氏(菌ちゃん先生)

様々なタイプのコンポストをご紹介します。マンションなど土のないところでも生ごみを出さない工夫を理解するとともに、生ごみを畑にすき込む有機農法では、栄養価の高い野菜が作れることを学びました。これらを実践することで、環境負荷を減らし、健康にも良い暮らしができることに理解を深めました。



宿題：プログラム作成

2回の勉強会を通じて学んだ事を基に、プロジェクト参加メンバーに、「生ごみを減らす取り組みを進めるために、どのような体験を実施したら良いか」というテーマで、ESDプログラムの案を各自考えていただきました。

第3回勉強会 日時：令和3年10月2日(土)

メンバーから提出していただいた ESD プログラムを、各自発表していただき、11月に実際に行うプログラムの内容を検討しました。高校生をはじめ、有機農法を実践されている方などからプログラムを考えていただきました。

<発表プログラム一覧>

- (1) 食べ物の気持ち～菌ちゃんと野菜が出会うまで～
- (2) 生きものはみんなぐるぐるサイクルつながっている
- (3) 生ごみで菌ちゃん野菜をつくらう
- (4) 大地から生まれたさつまいもをおいしく食べよう
- (5) サツマイモ収穫と芋つる加工調理
- (6) わたしたちのまなびあいをたしかめよう！

～なにがわかりましたか？～

それぞれの案を検討し骨子を固めた上で、運営メンバーで当日プログラムを作成しました。

関東地方 ESD 活動支援センター
ESD for 2030 学び合いプロジェクト～自然体験を通じて、生活に関わる SDGs を学ぶ～
ESD プログラム記入シート

対象：小学校低学年子供+親
人数：10人～25人程度
実施場所：畑(サツマイモ収穫)、広場(テントあり)
時間：2時間程度
使用可能用具等：コンポスト、簡単な調理道具、紙芝居等
※下記のフォーマットにご記入ください。1ページに収まらなくても構いません。

作成者 (ふりがな)	(団体名+姓+名)	
作成者の公開	公開可	非公開 (ペンネーム=)
作書メール		
プログラム名	食べ物の気持ち～菌ちゃんと野菜が出会うまで～	
ねらい	コンポストや食品ロスについて知ってもらい、食や調理の楽しさ、感謝の気持ちを学ぶ。	
期待されるSDGs 課題	ターゲット7.2	期待される効果 再生可能エネルギーの割合の割合を拡大させること。再生可能エネルギーを作り出す。
	11.a	地域規模の開発計画の強化を通じて、経済、社会、環境面における都市化、都市周辺部と農村部間の繋がりを作る。
	12.5	廃棄物の発生防止、削減、再生利用、再利用によって廃棄物の発生を大幅に削減すること。
プログラム	時間	場所・方法
	20分	畑
	20分	広場
	10分	広場
	15分	広場
	30分	広場や外
	30分	広場
	30分	広場
		広場
内容	内容	ねらい
	サツマイモの収穫+焼き火準備	食について知る・感謝することを学ぶ
	焼き芋を作る	調理することの楽しさを学ぶ
	コンポストについて+食品ロスについて	コンポストや食品ロスについて知ってもらおう
	コンポストづくり	実際に体験してみる
	教を見つけた行く	気付きをつける
	焼き芋を食べる	食べる事の楽しさ
	見つけた教紹介	紹介し合うことで新しい発見
用意するもの	ベントボトル・アルミホイル ・牛乳パック ・米ぬか ・コンポスト用の土	
その他		

第4回勉強会 日時：11月21日（日）



会場 チャウス自然体験学校（群馬県桐生市）
内容 ESDプログラム実証
主催 関東地方 ESD 活動支援センター
協力 NPO 法人チャウス、筑波大学附属坂戸高等学校

第3回で検討したプログラムを、実際に親子を対象に実施しました。当日は、筑波大学附属坂戸高等学校の生徒さんもプログラム実施者として参加してくれました。



収穫体験

サツマイモの収穫を体験することで、どのように食料が生産されているかを学びました。作物がどのような形で作られ、収穫にも手間がかかることを理解しました。今回のサツマイモは小ぶりなものが多かったですが、育てるのが簡単ではないことを理解したり、店で売っているものの品質の高さを知ることができました。



紙芝居

今回のプロジェクトメンバーと一緒にプログラムを考えてきた、筑波大学附属坂戸高校で食品ロスやコンポストについて研究している高校生の皆さんが作った紙芝居「さつまいもの夢」を上演。作物が実をつけるには、太陽、水、肥料が必要なことや、家庭から出る生ごみが肥料になること、そこには微生物の力があることなど、可愛いキャラクターを作って披露してくれました。お子さんに「循環の仕組み」を分かりやすく伝えるために、言葉を選び、表現を考え、たくさんの工夫を重ねた作品を制作いただきました。



コンポストを知る

コンポストについて学びました。まず、畑の一角作ったコンポストで、一か月前に入れた生ごみが殆ど消えてなくなっている事、3日前に入れた生ごみの分解途中の様子などを観察しました。うまく分解できているので、臭いをかいでも生ごみ臭さはあまりありませんでした。この他に、室内におけるフェルトバッグに木のチップなどを入れたコンポストを見て、最後にペットボトルで観察用のコンポストを作りました。

参加者の声

- ・今後、食べ物を残さないようにしたいと思った！（お子さん）
- ・野菜収穫や紙芝居などがあり、子どもも飽きずに参加していました。親としては、様々なコンポストの紹介があり、ますます生ゴミコンポストに興味を持ちました。（保護者）
- ・今まで、本日のようなイベントに参加したことがなかったので、とてもいい体験ができました。人と会話しながらイベントを行うことで講義を受けるより印象に残りやすいなと思いました。またコンポストにはたくさんの種類があり、目的によって変えることができることを知りました。今後の本日の経験したことを学校内の活動だけにとどめず広めていきたいと思いました。

（筑波大学附属坂戸高校生徒）

4. 人材育成機能（研修の実施、支援など）

ESD を推進するには、ノウハウを持った指導者の存在が欠かせません。また都市部と農村部では、地域毎で ESD に対するニーズが大きく異なるため、地域の実情に応じたプログラムを開発する必要があります。当センターでは、地域で ESD 事業に関わる方に対し、指導者研修や取り組みの支援を通じて、地域の ESD 人材育成を行っています。

■当センタースタッフによる講演、ワークショップ・ファシリテーション

実施事例：

ネイチャー・フェスタ!Koto

「SDGs の目標年 2030 年の江東区 どんな自然であって欲しい？」

日 時 令和 3 年 10 月 30 日（土）14:00～16:00

主 催 江東区 土木部 施設保全課 庶務係

企画運営 NPO 法人ネイチャーリーダー江東



江東区役所が主に区民を対象に、区内の自然やポケットエコスペース（ビオトープ）について、関心を高めていただき、自然を守っていくことの大切さを学ぶことができる展示会と各種イベントの一環としてワークショップを実施。大判の江東区の地図をもとに、区内で保全すべき場所や、改善したい場所を全員で共有しながら、SDGs を理解し生物多様性保全や持続可能な社会のために「未来の江東区の自然」について参加者全員で考えました。

■令和 3 年度のその他の支援等実績

・「相模原市教育委員会の野外活動教育施設職員研修」

開催日：令和 3 年 8 月 26 日（木）

会場：相模川自然の村野外体験教室・ビレッジ若あゆ（神奈川県相模原市）

参加者：40 名

・所沢市民活動支援センター「SDGs 講演」

開催日：令和 3 年 10 月 30 日（土）

会場：所沢まちづくりセンター中央公民館

参加者：12 名

・「第 4 回 上州ぐんま市民環境保全活動発表会 & 交流会」基調講演

開催日：令和 3 年 12 月 4 日（土）

会場：高崎商科大学（群馬県高崎市）

参加者：100 名

・「環境再生医」受講者向け研修動画での講演

開催日：令和 3 年 12 月 21 日（火）

会場：オンライン開催

※令和 3 年度は、新型コロナの影響により、複数の講演等が中止になりました。

当センターでは、学校、行政、企業、民間団体を問わず、ESD/SDGs の推進に関する人材育成のサポートを行っています。実施される団体のニーズに応じて、当センタースタッフ、地域 ESD 活動推進拠点等と連携し、対面・オンラインでの講師の派遣、研修等の企画の相談・コーディネートを実施しています。

初歩的なご質問から企画の設計に至るまで、トータルでサポートが可能ですので、まずはお気軽にご相談ください。



■ 関東地方・地域 ESD 活動推進拠点（令和 4 年 3 月現在）

ESD 活動支援センター（全国・地方）では、各地域で ESD の取り組みを支援することで ESD 推進ネットワークを牽引する「地域 ESD 活動推進拠点（地域 ESD 拠点）」を、重要なパートナーと位置づけています。地域 ESD 拠点は、地域で先導的、波及効果の高い ESD 活動を実践している組織・団体や、地域で ESD 活動を支援している組織・団体などの協力を得て、形成されています。地域 ESD 拠点は、趣旨に賛同して登録していただき、公開する仕組みとなります。詳細については、関東 ESD センターにお問い合わせください。

■ 茨城県



**認定 NPO 法人
茨城 NPO センター・コモンズ**
茨城県水戸市大工町 1-2-3 トモスみとビル 4 階
みとしんビジネスセンター C-1
電話：029-300-4321



BEK Lab（べくらぼ）
茨城県つくば市金田 88 番地
電話：029-857-2798



キャノンエコテクパーク
茨城県坂東市馬立 1234 番地
電話 0297-36-3101（代表）

■ 栃木県



特定非営利活動法人エコロジーオンライン
栃木県佐野市植上町 1331-6
電話 0283-23-9758



一般社団法人 社会デザイン協会
栃木県日光市猪倉 3392 番地 175
電話：0288-25-7073



栃木県環境カウンセラー協会
栃木県宇都宮市城南 3-2-9
電話 090-8022-6026



アジア学院
栃木県那須塩原市槻沢 442-1
電話 0287-36-3111



NPO 法人 那須高原自然学校
栃木県那須郡那須町大字高久甲
5720 番地
電話 0287-63-5559

■ 群馬県



**チャウス自然体験学校
（NPO 法人チャウス）**
群馬県桐生市広沢町 7-7-5
電話 0277-52-7799



**サンデンフォレスト
（サンデン株式会社）**
群馬県前橋市粕川町中之沢 7
電話 027-285-3225



上州ぐんま ESD 実践研究会
群馬県高崎市根小屋町 741
高崎商科大学 萩原豪研究室
joshu-esd@pompoco.net



きりゅう市民活動推進ネットワーク
群馬県桐生市末広町 11-1
J R 桐生駅構内
電話 0277-47-4066



**藤岡市ボランティア
ネットワークセンター ウィズ**
群馬県藤岡市藤岡 1485
（総合学習センター 内）
電話 0274-22-8883

■ 埼玉県



筑波大学附属坂戸高等学校
埼玉県坂戸市千代田 1-24-1
電話 049-281-1541



一般社団法人里山こらぼ
埼玉県飯能市上名栗 412-1
junko_hirai@satoyama-co-lab.com

■ 千葉県



**特定非営利活動法人
環境パートナーシップちば**
千葉県千葉市花見川区横戸台 21-13
電話 090-8116-4633

■ 東京都



新宿ユネスコ協会
東京都新宿区原町 1-39
FAX 03-3232-2501



立教大学 ESD 研究所
東京都豊島区西池袋 3-34-1
立教大学 12 号館 2 階 B206
電話 03-3985-2686



NPO 法人新宿環境活動ネット
東京都新宿区西新宿 6-12-7-807
info@shinjuku-ecocenter.jp



聖心女子大学グローバル共生研究所
東京都渋谷区広尾 4-2-24
聖心女子大学 4号館/聖心グローバルプラザ
電話 03-3407-5811 (大代表)



**多摩大学アクティブ・ラーニング
支援センター**
東京都多摩市聖ヶ丘 4-1-1
電話 042-337-7679



晃華学園中学校高等学校
東京都調布市佐須町 5-28-1
電話 042-487-0697



**成蹊学園サステナビリティ教育
研究センター**
東京都武蔵野市吉祥寺北町 3-3-1
電話 0422-37-3480



一般社団法人 ESD TOKYO
東京都西東京市
sdgs.school.festival@gmail.com



**NPO 法人持続可能な
社会をつくる元気ネット**
東京都世田谷区南烏山 6-33-7-506
電話 03-6300-5157



NPO 法人渋谷川ルネッサンス
東京都渋谷区代々木 5-54-1
石井健蔵気付
電話 080-5682-8164

■ 神奈川県



認定 NPO 法人アクト川崎
神奈川県川崎市高津区溝口 1-4-1
ノクティ 2・11 階 高津市民館内
電話 044-813-1313



NPO 法人横浜市民アクト
神奈川県横浜市保土ヶ谷区星川 1-2-1
ほどがや市民活動センター アワーズ内
電話 045-334-6306



かわさき環境教育学習プロジェクト
川崎市中原区井田杉山町 2 4 - 8
電話 070-6574-3001

■ 新潟県



学校法人日本自然環境専門学校
新潟県新潟市中央区花園 1-3-22
電話 025-247-0011



新潟市水族館マリニピア日本海
新潟県新潟市中央区西船見町
5932-445
電話 025-222-7500



一般社団法人新潟市ユネスコ協会
新潟県新潟市江南区沢海 2-15-25
(一財) 北方文化博物館内
電話 025-385-2001



一般社団法人あがのがわ環境学舎
新潟県阿賀野市保田 3866 番地 1
電話 0250-68-5424



公益財団法人鼓童文化財団
新潟県佐渡市小木金田新田 150-3
佐渡太鼓体験交流 (たたこう館) 内
電話 0259-86-2320



フォッサマグナミュージアム
新潟県糸魚川市大字一の宮 1313
電話 025-553-1880

■ 山梨県



公益財団法人キープ協会
山梨県北杜市高根町清里 3545
電話 0551-48-3795

■ 静岡県



**特定非営利活動法人
アースライフネットワーク**
静岡県静岡市葵区黒金町 12-5
丸伸ビル 2F (フロントオフィス)
電話 054-271-8806



**伊豆半島ジオパーク推進協議会・
教育部会**
静岡県伊豆市修善寺 838-1
電話 0558-72-0520



一般社団法人自然エネルギー推進機構
静岡県伊東市八幡野 1126-16
電話 0557-52-3066



公益財団法人 ふじのくに未来財団
静岡県静岡市駿河区八幡一丁目 2-21
KKビル 101
電話 054-665-8005



VISIONARY INSTITUTE
静岡県伊東市八幡野 1283-12
電話 090-3344-4670

■ ご活用ください

関東地方 ESD 活動支援センターでは、関東ブロック（1都9県：茨城・栃木・群馬・埼玉・千葉・東京・神奈川・新潟・山梨・静岡）における、学校、社会教育施設、NPO/NGO、企業など、様々な組織の方からの、ESD 取り組みの推進や、SDGs に関する学習などの支援を行っています。対面・オンラインでの講師や専門家のご紹介や、プログラムの実施など、地域 ESD 拠点と連携しながら、適切なコーディネート、ご助言をさせていただきます。お電話、メール、対面でのご相談を受け付けておりますので、まずはお気軽にお問い合わせください。

■ アクセスマップ

最寄駅：・表参道駅（東京メトロ：銀座線・千代田線・半蔵門線）（B2出口より徒歩約5分）

・渋谷駅（JR・東急・京王井の頭線・東京メトロ）（ヒカリエより徒歩約10分）



関東地方ESD活動支援センター
Education for Sustainable Development

TEL : 03-6427-7975

URL : <http://kanto.esdcenter.jp>

E-mail : kanto@kanto-esdcenter.jp



関東EPO
Environmental Partnership Office Kantō

TEL : 03-3406-5180

URL : http://www.geoc.jp/kanto_epo

E-mail : kanto-epo@geoc.jp

※ 環境パートナーシップオフィス（EPO）は環境省が全国8カ所に設置している拠点です。関東 EPO では地域の特徴を活かした、環境活動の活性化・パートナーシップによる地域づくり推進のため、時代や地域のニーズに合わせた様々な支援事業を共に行っています。

（関東 ESD センター・関東 EPO 共通）

東京都渋谷区神宮前 5-53-67 コスモス青山 B1F

時間：10:00～18:00 休館日：土曜、日曜、祝日、年末年始

運営団体：一般社団法人環境パートナーシップ会議（EPC）

設置者



文部科学省
MINISTRY OF EDUCATION,
CULTURE, SPORTS,
SCIENCE AND TECHNOLOGY-JAPAN

